

# しあわせの

Hokkaido Civic Activity Support Center

No.87

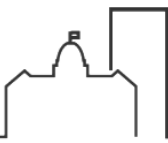
2022年全道中間支援センター研修会in函館

2022年度活動報告

- ・公募企画講座
- ・中間支援組織支援事業
- ・市民活動スタッフ養成講座

センターからのお知らせ





レポート

# 2022年全道中間支援センター研修会 in 函館

丸藤 競さん NPO法人NPOサポートはこだて



少子高齢化、人口減少など社会の変化を前に、市民活動の重要性は今後ますます高まると考えられます。市民活動のサポートをする中間支援組織の役割もさらに必要とされるでしょう。

道内の中間支援組織が一堂に会す「全道中間支援センター研修会」が今年度も開催されました。どんな課題が話し合われ、どんな講座がおこなわれたのか。二日間の研修の様子をレポートします。

## 中間支援組織の研修会

2022年12月2日(金)と3日(土)の二日間にわたり、全道の中間支援組織の研修会「2022年全道中間支援センター研修会 in 函館」が、函館市地域交流まちづくりセンターで開催されました。

札幌市や旭川市、室蘭市、釧路市、中標津町などで活動するNPO中間支援組織などから、オンライン参加も含め約25名が参加し、スキルアップと交流をおこないました。

初日は、開催挨拶のあと、道内中間支援組織の近況報告からスタート。道内各地で施設を運営している組織からは、コロナ禍による市民活動団体の活動縮小などの悩みや、今後に向けての思いなどの発言がありました。

## コンプライアンス講座

研修の第一弾は、講師として札幌の弁護士・今野佑一郎さんと、IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]代表者・川北秀人さんを迎え「NPOが知っておくべきハラスメント・コンプライアンス対策講座」をおこないました。

待も守る」こと。NPO法人は不特定多数の人や社会に役立つ組織であり、社会からの期待に応える存在でなければならないことを再認識することができました。

また、市民活動においては会員やボランティアなどとの信頼関係が基礎であるため、雇用関係以外も含めたハラスメント対策をしっかりと行うことが必要です。そのためには、個々の心がけだけではなく、しっかりと組織としてハラスメント対策を「システム化」する必要があります。たとえば、発生しない・させないための防止策としてなにをするか。万が一発生した場合に、どのような対策をとるかを就業規則などで規定し、その内容をパンフレットやサイトに記載するなどが大切とのことでした。



NPOならではのコンプライアンスを重視すべき点としては、「法律だけでなく、自分たちがつくったルールや社会からの期

2020年6月に施行された改正労働施策総合推進法では、2022年4月から中小企業を含む全ての事業主でもパワーハラスメントの防止措置が義務化されています。当然NPOでも、方針等の明確化や周知啓発、必要な体制の整備、迅速かつ適切な対応等は講じていかなければなりません。

今回の研修をもとに、中間支援組織少しでも学びを深めていかななくてはならないと強く感じさせられました。



## 中間支援組織のガバナンス

二日目は、前日に続き川北秀人さんを講師に迎え「中間支援組織のガバナンスと原点」について学びました。

非営利組織を対象にしたアンケート調査をもとに、ガバナンスの本来の意義である

- ・自分たちの組織の決まり事を自らが考え整備すること
- ・理事・監事などの役員に期待すること
- ・理事会で協議を深めたいこと

などについてお話をいただきました。また、認定NPO法人NPO会計税務専門家ネットワークが出している『NPO法人のための業務チェックリスト』などを参考に、法令・定款違反等の未然防止の必要性についても学びました。

理事会の役割については、形骸化してしまい本来の役割を発揮できないでいるNPOも多いと言われています。社会からの期待に応えていくためにも、学びの多い研修になりました。組織を自律的に改善し拡充を進めていくためにも、行政主導で設けられた枠組みに受動的に従っているだけにならないためにも、自分たちの組織のガバナンスはどうなっているかを把握していくことは重要です。



今回の研修で取り上げたテーマは、北海道内の中間支援組織等でおこなっている、リモートによる情報交換の場で参加者からの希望があり決めたものです。今後も、各組織が学びたいと思っているテーマについて学べる場をつくっていければよいと思います。



## ファッションとまちづくり

二日目の午後は、オプション企画として、ファッションブランドtenbo(テンボ)代表デザイナー鶴田能史さんを講師に「ファッションの可能性～福祉・多様性・まちづくり～」と題した講演を行いました。

この講演会は市民向けに開催したもので、会場には鶴田さんがデザインした「BIG BOSS」新庄剛志監督が日本ハムファイターズ監督就任の年の沖縄キャンプ入りの時に来ていたグローブでつくった衣装を会場に飾ったこともあり、多くの方が見に来てくれました。

鶴田さんはLGBTQや障害、病気を持った方などが当たり前にならぬお洒落して歩けるような服を積極的にデザインしている方で、当事者が出演するファッションショーを全国各地で開催しているほか、多くの有名人の衣装も手掛けています。

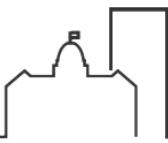
ファッションが多くの立場の人に元気を与えることができること、多様性を認めていく視点の大切さ、それを可能にするためのちょっとした知識と工夫。「世の中全ての人へ」を掲げ、デザインをしている鶴田さんならではの講演会となりました。

会場となった函館市地域交流まちづくりセンターは、2007年4月1日に、旧丸井今井百貨店だった建物をリノベーションしてオープンした施設です。建物自体は、建てられてから今年ちょうど100年になります。89年前に設置された手動式エレベーターは東北以北最古のもので、観光客からの人気スポットにもなっています。余談ではありますが、GLAYの写真集の撮影場所になったことから、「GLAYの聖地」とも言われています。観光地の入り口にあることもあり、シーズン中は観光案内にも忙しい日々を送ります。

会議室や研修室、多目的ホールなどの貸し出しに加え、移住者支援や市内および近郊で活動している団体と連携して防災や災害時の支援活動を広げていく取組や、町会活動活性化への支援、市がおこなっているワーケーションへの協力など、年々活動の幅が広がってきました。函館のみなさまからは「まちセン」という通称で呼ばれています。春からは新しいスタッフも入る予定です。函館にお越しの際はぜひお立ち寄りください。



「NPOが知っておくべきハラスメント・コンプライアンス対策講座」は当センターの公募企画講座として、「中間支援組織のガバナンスと原点」は中間支援組織等事業助成、「ファッションの可能性～福祉・多様性・まちづくり～」は市民活動ステップアップ講座として開催に協力いたしました



2023年2月18日(土)に、漫画家の棚園正一さんを講師に迎え不登校フォーラム『学校に行かなかった僕たち』から伝えたいことを開催しました。

棚園さんは自身も不登校の経験があり、当時の様子や心境を漫画にされています。その漫画のコマをつかった講演はとてもわかりやすく、多くの人が熱心にメモを取っていました。

棚園さんが学校に行けなくなった直接の理由は、教師からの理不尽な暴力でした。なぜ叩かれたのかわからず、不安から、朝になると頭痛がするようになります。親はなんとか学校へ連れて行こうとしますが、どうしても布団から出られない。そのうち、学校へ行く時間になると悪夢を見るようになります。

ビルの向こうから真っ黒のおじさんがだんだんこちらに近づいてくる。追い詰められ、捕まるかもしれない。そんな恐怖を感じていたといいます。

それでも棚園さんは学校の先生を恨みはしなかったそうです。むしろ、自分がおかしいのだと思っていた。みんなができる「フツウ」が自分にはわからなくて怒られた。自分が「フツウ」じゃないのが悪いのだと自分を責めます。

親へもおなじで、自分のせいで親を困らせてしまった、親に嘘をつかせてしまったと、常に自分を責めます。父親から心ない言葉が言われても、「そんなことを言わせる自分が悪い」と悲しい気持ちになったそうです。

### 不登校フォーラム 「学校に行かなかった僕たち」 から伝えたいこと



### 2023年2月18日・NPO法人北海道フリースクール等ネットワーク

転機が訪れるのは、ある有名な漫画家に出会えたことでした。もともと絵を描くのが好きで、小さいころから漫画を描いていたのですが、あこがれて何度も模写した漫画家に、たまたま会うことができた。そこでこう質問したそうです。

「学校に行かなくても漫画家になれますか？」

なんと答えが返ってきたかは、ぜひ棚園さんの漫画を読んで確認してください。その言葉を聞いた瞬間、棚園さんはずっと気持ちが軽くなり、世界がいままでより楽しそうに見えたそうです。

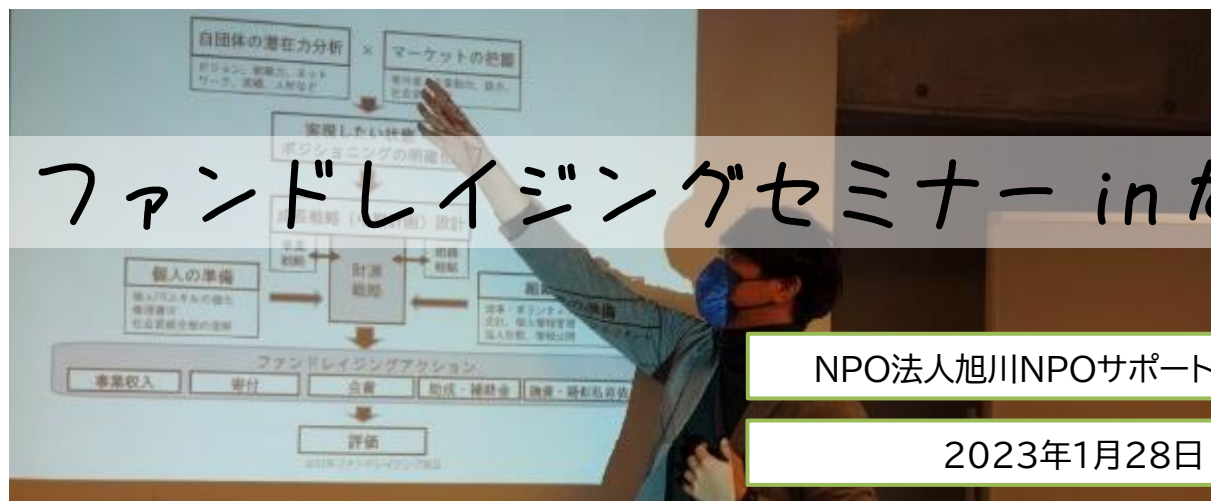
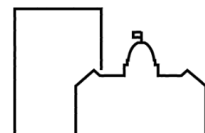
自身の経験をもとに、子どもには「三つ目の世界」が必要だと棚園さんは言います。学校のことをまったく切り離して会ってくれる人、切り離して通える場所。そういう世界があると、不登校の子どもは追い詰められずにすむ。

後半は質疑応答をおこないました。質問用紙に聞きたいことを書いてもらい、休憩時間中にあつめたのですが、なんとすべての質問に答えていただきました。「もし自分の子どもが不登校になったら？」との質問には、子どもはいないので前置きしつつ、「えー？ なんで？ と思う」と答え、会場の笑いを誘っていました。

そのほか、「本人のやる気スイッチはすでに入っている。オンオフではなく、日々のなかで変化していくもの」「『待つ』のは現在の否定につながる。待つのではなく、いまを楽しむことが大事」など、さまざまなアドバイスをいただきました。

棚園さんの講演会を企画したのは三年前になります。コロナ禍でずっと実施できずにいたのですが、今回、ようやく来ていただけました。100名近くの参加があり、不登校に悩む保護者が多いとあらためて実感しました。

### NPO法人北海道フリースクール等ネットワーク 相馬契太さん



NPO法人旭川NPOサポートセンター

2023年1月28日

2023年1月28日(土)に、北海道立市民活動促進センターの中間支援組織等事業助成を活用し、北海道NPOサポートセンター理事で日本ファンドレイジング協会の法人連携推進パートナーでもある久保匠さまを講師にお招きして「ファンドレイジングセミナーin旭川～共感型の資金調達的基础を学ぶ～」を開催しました。

座学とワークショップからなる2部構成で、座学ではファンドレイジングの基礎を学び、事例紹介していただいた後、実際に具体的に活動に巻き込みたい人を想定しながら、その方に何が提供できるかを検討しました。

ファンドレイジングといえば最近クラウドファンディングが目立っていますが、もちろんそれ以外の寄付や会費、助成金、事業収入、融資など、NPO等非営利団体の資金調達の方法を広く定義したものを対象としています。

これらの団体の活動は社会的課題の解決に重要な役割を果たしている反面、サービスの受益者から対価が得にくく、支援者から資金調達する必要があるという特性があります。そのため、しばしば活動資金確保に苦勞する団体が多く、そのことがこのセミナーを企画した動機にもなっています。

2020年の『寄付白書』によれば、個人寄付の推計総額は約1.2兆円規模で、なおかつ拡大傾向にあることが見てとれます。正直、私が考えていた以上に規模が大きいという感想を持ちましたが、これは社会課題に取り組むNPO等非営利団体の活動への社会の関心が高まっていることを示しています。

また、寄付の動機としては「団体への共感」や「社会貢献意識」が高くなっています。寄付を自団体の活動に繋げるために団体のビジョンがいかに大切であるかを知ることができました。



資金調達という視点に話を戻すと、「事業、組織、財源の一体的発展戦略」が必要、「財源のバランス」が大事というお話もうかがいました。これらはNPO等非営利団体に限らず、どのような事業でも成立することのように思いました。

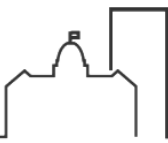
これに加えて「共感」を軸に事業を発信し、ステークホルダーを紡ぎ、最終的には事業に巻き込むというファンドレイジングの手法は、事業化が困難なことが多いNPO等非営利団体の活動に有効だと思いました。



この後、いくつかの事例を紹介していただいたからワークショップで実践する段取りとなりました。実際に活動に巻き込みたい支援者を想定しながら、第一段階ではペルソナシートに年齢・性別・家族構成などの基礎情報、その人の価値観や自団体との距離感、寄付・ボランティア体験などを書き込みます。次にペルソナ分析の結果を考慮しながら、支援者に提供できる価値、プログラム、期待する行動変容などを書き加えます。

参加者の中には具体的にイメージされている方がいらっしまったようで、そのような参加者にとっては特に有意義な研修会になりました。

NPO法人旭川NPOサポートセンター 長嶋正明さん



第四回・午前（2022年9月27日）

## NPOの会計

講師：瀧谷和隆さん  
（税理士、NPO法人エーピーアイ・ジャパン理事長）

私は、事務局として業務をするにあたり、NPOに関しての色々なことを学びたいと思い、市民活動スタッフ養成講座を受けさせていただきました。

市民活動スタッフとしての業務のなかで、「NPOの会計」の部分は一番、重要な役割があるのではないかと思います。そして、「NPO法人会計基準」というものをしっかりと理解して取り組まないといけないなと思います。

最初、NPOの会計基準という言葉聞いたとき、とても難しい内容なのかなと不安になりましたが、まず、お金が適切に使われたことをきちんと説明する。そして、自分たちのことを多くの人に説明する。ということの日頃からしっかりとやることによって、まわりで理解していただき、応援して協力してくださる方を増やしていくことにつながっていくのだということがよくわかりました。



もともと簿記の勉強をして資格を持っているので、「貸借対照表」や「勘定科目」という言葉は知っていましたが、いわゆる、一般の企業とは会計のやり方が違うんだなと思いました。「活動計算書」や「貸借対照表」を補足する「財務諸表の注記」の3点セットであること、NPOならではの事業費と管理費というものがあること、役員報酬の表示やボランティアによる役務提供など、とても幅広い内容なんだなと思います。

そして、NPO活動をするにあたり、寄附金というものがあり、その寄附金をいかに上手に活用していくかが、一番、頭を使う部分であり、腕の見せどころなのかなと思います。

そして何よりも、会計する上でも一番大切なのは信頼関係なんだということがよくわかりました。今回は、令和5年10月1日から始まる「インボイス制度」のこともあわせて学べ、とてもよかったと思います。

今後も、いろいろ勉強しながら、活動を少しずつ広げて、信頼関係をつくっていったらと思いました。

ひがし北海道市民防災サポート 辻川美奈恵さん

第四回・午後（2022年9月27日）

## 企業との協働

講師：加納尚明さん（NPO法人札幌チャレンジド理事長）

企業とNPOはどう出会い、どう結び付ける（結び付く）のか。企業とNPOが対等な立場で働く（うごく）とどうなり、そこにはどんな効果があるのか。互いの得手不得手の凹凸が埋まり、win-winなカタチで目的が達成されるのではないかな。

講座参加前、自分の頭の中で思考を巡らせながら、講師である加納尚明氏の講話を楽しみに当日を迎えました。

加納氏の自己紹介とともにNPO法人札幌チャレンジドの「理念」を説明いただき、「理念」の成り立ちや、言葉に込められた思いや戦略に、これまで自組織の「理念」について、実はあまり気に留めていなかったことに気づき、講座のスタートから反省させられ、この講座の答えがすべて詰まっているように感じました。自組織を意識すると、「必要なコト」や「足りないモノ」が見え始め、これからは考えながら講座を聞き進めていました。

「広報」とは関係性を築く種まきである。相手を知ること大切だが、自分たちを知ってもらう「広報」がとても重要で、種まきだけで満足していたことから来る広報力の弱さが今に至っていることに気づかされました。クチコミでの広がりを意識した戦略を立て、メディアに届くようにすること。それが企業に届くことで活動資金などにもつながるため、しっかりとまいた種を育てることの重要性を知らされました。

CSRに取り組む企業が年々増えてきている現状であるからこそ、より効果的に事業展開でき、多くの企業で出されているサステナビリティレポートの活用が有効であることや、自組織はどのSDGsに当てはまるのかを明示することによって、企業と自組織の共通点を見つけやすくなるなど具体的に教わり、まわりに伝えていきたいと思いました。

「企業との協働」と言われるとすこし敷居が高く感じてしまいがちですが、連携成功のポイントも惜しみなく教えていただくことで、いま自分たちがやってきていることをベースに前進していくことを考えていきたいと思いました。

「長年活動をしてくと自組織がどこに向かっているかボヤけるからブラッシュアップが必要だ」とおっしゃった加納氏の言葉が印象的で共感でき、まずは「理念」から新しい目で読み返すことから始めていくこととします。

札幌市市民活動サポートセンター 柴田由香さん



## 第五回 (2022年10月19日)

## ファンドレイジング入門 ～その理論と実践～

講師：徳永洋子さん(ファンドレイジング・ラボ代表)

NPOに入職するまで「ファンドレイジング」という単語すら知りませんでした。

民間企業で働いていたため、経営の資金の流れを深く考えたことがありませんでした。しかし、非営利組織では、個人と団体が資金を獲得するために自ら動き、そこにいろいろな収入の獲得方法があることを学びました。

セミナーなどの「事業収益」を上げることは、行動力をアピールするものであり、「助成金」獲得の要因となり、「寄付・会費」を増やす一因となり、そこでまたイベントなどの「事業収益」につながる。すべてが循環し結びついています。

さらには、自団体が世間に認知され信頼を獲得し、新たな事業を展開する可能性も出てくるという相乗効果が生まれることにも驚きです。

資金集めは非営利組織の目的ではなく、課題解決のための手段でもあります。各団体の目的や課題を達成するためには、ファンドレイジングのための応援してもらえ・応援したくなるような組織作りが不可欠要素となるのではないのでしょうか。



いまは、簡単にネットで一般の人もクラウドファンディングで資金集めをすることができます。募集することは簡単ですが、実際に資金を獲得するためには、そこに個人や団体としての信頼関係や、応援したくなる組織であるかどうかとも必要になってきます。

また、「遺贈寄付」について。核家族が増えていたり、相続する家族親戚縁者が少なくなったり、疎遠であったりすることが増えてきている現代。そのような場合に遺贈寄付があることを知り、これはNPOなど中間支援団体で、困窮者支援・寡婦支援・引きこもり児童が増えているなか、さまざまな課題解消に、活用できる“循環するツール”が多々あるということを学ぶことができました。

## 第六回 (2022年11月17日)

## 非営利組織のガバナンス拡充を進めるために 北海道内の地域の持続可能性を高めるために

講師：川北秀人さん  
(IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所] 代表者)

市民活動スタッフ養成講座最終回、午前は「非営利組織のガバナンス拡充を進めるために」。146団体が回答したアンケートをもとに、組織本来の役割を發揮するための理事会、総会、評議員会の実施方法やなされている工夫、事務局長や理事、評議員や監事が、具体的にどのような役割を果たすべきか、組織本来の役割を健全に發揮するための学びでした。

理事は、連絡手段によって緊急対応のスピードに差が出ること。業務を理解するようになり、新しい人を育てるためにはどのくらいの任期がいいのか。監事は、適正に運営しているかのチェック機能であり、「運営に関わってほしい」という声も。分野によって組織体制に差が出てくることも、調査結果から知りました。



午後の「北海道内の地域の持続可能性を高めるために」は、小規模多機能自治体のお話でした。

人口減少は待ったなしで進んでいます。イベントからサービスへ、手段のひとつとして有効なのは、事業の掛け合わせ。健康づくり、福祉・防災・生活支援は一体で。

島根県雲南市の「笑んがわ市」、岐阜県高山市の厳冬期限定共同住宅「のくとい館」、大阪市新東三国地域活動協議会の「選挙投票所での避難所公開デイ」など…全国さまざまな事例のなかでも、那覇市の真地(まーじ)団地自治会の自治会長、眞榮城(まえき)さんの言葉が深く心に残りました。

団地の集会所で開く食堂でお金を徴収することを、市役所は認めなかったけれど、行動し、市長が認めてくれた。

「自治会は、人の命と暮らしを守るためにある」

これこそ市民活動の根本であり、中間支援として、そのために活動する人達とともに生きていきたい、と思いました。

三年ぶりの対面実施となった「市民活動スタッフ養成講座」は、名刺交換や講座前後の交流などが自然と生まれ、より実りの多い研修となりました。市民活動のためのしっかりと土台づくりと、今後の支えとなる出会いの機会をありがとうございました。



# しみセンからのお知らせ

## 市民活動促進センターのご案内

北海道立市民活動促進センターには交流コーナーや情報コーナー、作業室などがあり、市民活動団体であれば利用できます。



※ 政治・宗教・営利を目的とした活動や私用ではご利用いただけません。

### ■相談コーナー

団体運営や実務、NPO法人設立、そのほか市民活動に関する相談に来所、電話、FAX、メール、オンラインなどで対応しています(予約制)。

### ■交流コーナー (A～F)

打ち合わせ、勉強会、作業など自由につかえるスペースです。最大4コーナーを同時に利用できます(予約制)。

こちらから各コーナーの予約状況を確認できます。



### ■情報コーナー

パソコンやスキャナー、プリンターがあり、市民活動に関する情報収集や資料作成などに利用できます。また、市民活動団体の広報物や助成金のご案内などを配架・掲示してあります。広報物の掲示を希望する方は、郵送または直接持ち込みいただければ、確認の上で掲示いたします。

### ■作業室 (地下1階)

2色印刷ができる印刷機や紙折機、電動裁断機など資料作成に役立つ機器が利用できます(予約制)。

### ■予約について

2か月後の月末までの予約を受け付けています。予約は電話、FAX、メールまたは直接受付でおこなっています。予約状況は当センターのサイトから確認できます。ぜひご利用ください。

### ■印刷機器の料金について

印刷機器は有料のものや用紙の持込が必要なものがあります。主なものについては次の表をご覧ください。

場所	機器	料金
作業室(地下)	印刷機 *1	50円/製版 0.2円/枚 *2
センター(8階)	カラープリンター	20円/A4 30円/A3
センター(8階)	コピー機	10円/枚

\*1:別途、印刷用紙が必要です。 \*2:10円未満は切捨て

その他にも市民活動に役立つ機器があります。詳しくは当センターのサイトをご覧ください。

## 北海道立市民活動促進センター

指定管理者:(公財)北海道地域活動振興協会

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目  
道民活動センタービル(かでの2・7)8階  
TEL.011-261-4440 FAX.011-251-6789  
E-mail:center@do-shiminkatsudo.jp  
https://www.do-shiminkatsudo.jp/



月～金 9:00～21:00

土日祝 9:00～18:00

公共地下歩道:(1番出口)徒歩約4分

